

平成23年1月(2011年) No.541

新年のごあいさつ 今年も元気で

映像を楽しめる年でありますように

会長 合原一夫

会員の皆さん、明けましておめでとうございます。もう1年経ったかど月日のたつのが早く感じられますが、そう思うのは年寄りになった証拠とだとも云われます。私も含めて体のどこかに何やら不安のある方は大勢いらして寄るとそんな話も出てきます。しかし映像を趣味としてやっている方は大変に明るく二次会でも楽しく語り合っておられます。共通の話題で盛り上がるのです。政治の世界や経済の話は明るい話題は少ないのですがわが仲間たちは、明るく前向きに生きておられる方々が大半だとお見受けいたします。今年も元気で映像を楽しんでいきましょう。

さて、昨年平成22年度を振り返ってみますと、OMC50回記念映像フェスティバルを朝日生命ホールで開催するという、大きな行事がありました。これは大成功のうちに無事やり遂げました。これも会員諸氏の強力なご支援の賜物であり生涯忘れ得ぬ行事となりました。

撮影会は大井川鉄道とその周辺の一泊旅行で参加者17名と盛会でした。その作品コンテストも11作品が出品され、甲乙つけ難い出来映えでした。例会状況をみますと、毎月の出席者は26.5人となり前年より1.6人減りました。作品数も13.2本と、これも昨年より2.4本少なくなっています。

例会の進行の点から云えば12～3本あたりが意見交換等あってよいのですが15本を越すと9時までに終らすのにせい一杯です。今後出品数が減り続けますと心配になってきます。皆さん今年もぜひ頑張って作品づくりをして下さい。何はともあれ、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

1月例会と総会及び新年会のお知らせ

1月例会は通常と異なり**第3日曜日16日13時**よりとなりますのでお間違いの無いようご注意下さい。場所はいつもの通りJR難波駅上4階市民学習センターにて。例会後、総会を行います。年度賞はその場で発表となります。**新年会**は17時より5階のレストランで行います。

昨年の例会記録

例会を盛り立てていくには、まずは会員さんの出席がなければなりません。昨年はいくも欠かさず出席していただいた方が昨年より2名多い12名、1回だけご欠席で11回出席の方が4名、計16名おられ会を盛り立ての中心になっていただきました。これはまずは健康であること、次は例会日を大事にして他の用事に優先して出席して頂いているのではと感謝しております。

次は作品出品数ですが、毎月出席して出品された方3名、1回だけは無しで11本出された方が2名、計5名を数えました。昨年の7氏にくらべて2名減りました。しかし、毎月のように新作を作ってこられるというそのご努力には敬意を表します。

◆全例会出席者：有村、江村、岡本、紙本、合原、進藤、関、錦、華岡、前田、宮崎、吉岡の12氏。

◆11回出席者：井上、河合、森下、山本の4氏。

◆全例会出品者(12作品)：江村、進藤、前田の3氏。

◆11作品出品者：有村、山本の2氏。有村さんは3月例会で作品持参でしたが9時を過ぎましたので上映できない事情がありましたので、実質的には12作出品者です。

■この5年間の例会記録

年度	会員	1例会あたり		年間作品
		出席数	品数	
18	41	27.4	14.5	174
19	38	28.6	15.0	197
20	40	26.5	16.4	207
21	40	28.1	15.6	197
22	40	26.5	13.2	169

注) 年間作品数には撮影会作品を含む。但し、1例会あたり平均値には含まず。

■テープ方式の推移(百分率)

年度	DV	ワイド	HDV
18	28.7%	27.0%	44.3%
19	15.2	14.2	70.6
20	12.1	11.1	76.8
21	3.7	11.8	84.5
22	7.1	8.9	84.0

この5年間ですっかりハイビジョン化が進み定着したことを示しています。ただD

Vやワイドも少数派ながら存続していくようです。

年間作品数はこの5年間で最低となってしまいました。お互い高齢化が進んできましたので、減少していくのはやむを得ない定めかも知れませんが、何とか元気で作品づくりを楽しんでいきたいものです。

クラブ運営の課題と対策

会長 合原一夫

わがOMCは、40名の会員を抱えて今まで何とか順調に運営してきましたが、会員の高齢化、健康上の問題などもあって、このままでは先行き不安な課題が出てまいりました。そこで発生してきた課題の整理と対策をたてました。12月例会前の世話役会でご了承を得ましたので、一般会員の方々にもご理解とご協力をお願いいたします。

■公開映写会の上映担当者を補強

今まで関さんに主に上映機器のセットから調整及び本番上映までやって頂いており大変感謝しております。が、関宅と会場との間の機材の運搬や、会場での配線、音声の調整など、藤原さんが陰ながらやって頂いておりました。ところが藤原さんがお仕事や健康上のこともあって世話役を一切辞退されましたので、関さんが自らレンタカーを借りて荷の積降ろし運搬など大変なご苦勞をかけた、という事態になりました。関さんには撮影会ロケハンや資料集めなど他にもご苦勞をかけており、この際、関さんの負担を軽くし、後継者や代行者をつくる必要があると判断しました。映写会は年5回(中央図書館3回、中央会館2回)行われていますが、機材の運搬は進藤さんに自家用車を出して頂き、機器のセット、配線、上映手伝いを進藤さんと江村さんをお願いし了承を得ました。関さんが映写会当日、突発的事情で出られなくとも映写会が実施できるよう、関さんより上記の方々に配線や音のレベル調整その他の技術を継承し、将来はまだまだお元気な進藤、江村の両氏に上映担当を引き継いで貰いたい考えです。■例会運営の課題と対策

例会では安居さんに司会や書記のほか、毎月の記録DVDの製作及びビデオサロン

への投稿など大活躍して頂いておりましたが、残念ながら事故に遭われて世話役を降りられました。また増池さんも上映担当でご苦労をかけていましたが、健康上の理由で例会お休み中です。そこで新世話役として上田、宮井、井上の3氏に入って頂きました。

・書記(記録、講評)役に宮井氏が新加入例会の役割分担で一番難しく誰でもがハイと引受役がないのがこの書記担当です。ですが今回安居さんの代わりに宮井さんが引き受けて頂き、ほっとしています。

1月例会からは宮井、岡本、関、前田、有村、合原各氏6名による輪番制として年間を通じて担当者が決まりました。

・司会役に進藤、上田両氏が初登場

司会役は有村、吉岡、進藤、上田の4氏による輪番制で年間を通して担当を決めました。進藤さんには会計と受け付けの役割でしたが、受け付けは華岡、宮崎、紙本の3氏交代制で、進藤さんには大変ご苦労さまですが会計のほか司会も輪番制の中に入られます。

・上映担当が録画も担当へ

毎月の例会作品を記録用に安居氏(後に関氏)が録画されているほか、書記役の方が講評を書くために自分のカメラを持参して録画しておられました。こうしたカメラ持参の録画をやめて簡素化を図るため、上映担当、特に江村さんを録画担当に決めて、そのテープを書記役が活用し、その後江村さんにDVDにして頂く様にしました。

・撮影会企画、実施の纏め約も輪番制に

今まで撮影会の企画は6名の担当者により候補地を決め、実施への手続き等は関さんに主に負担をおかけしていましたが、負担軽減策として、関さんには企画顧問になって頂き、他の企画担当者の輪番制で、実施への手配、ロケハン等のまとめ役をお願いすることにしました。このため新世話役になられた井上さんにも加わって頂きました。平成23年度の一泊撮影会の企画と纏め役は岡本さんが担当されます。ですが一人ではできませんので他の企画担当者の協力と適切な助言を関企画顧問にお願いします。

■公開映写会作品のDVD化は関氏に委嘱

大阪アマチュア映像祭と日本を縦断する映像発表会の作品はDVDにして中央図書館に寄贈し、一般の方々に観てもらっています。OMC映像フェスティバル作品も、DVD化して会長が保存しています。これらは藤原さんが一手に引き受けて頂いていましたが、これからは関さんをお願いすることにしました。心苦しい限りですがよろしくお願いたします。

■第28回日本を縦断する映像発表会は2月第1日曜日6日12時より(開場は11時半)開催します。ぜひご来場ください。

12月例会レポート

12月も押し詰まった25日、今年最後の例会を開催しました。外は寒さが身に沁みる日で23名の出席者と10本の作品がありました。このところ出席者と作品数が減少気味で気になりますが、来年は更に減らないように願うと共に、皆さんお元気で作品づくりにも励んでほしいと思います。今月の司会は吉岡さん、書記、合原さん、上映担当、井上さんと江村さん、受け付け照明係は紙本さんと宮崎さんにやって頂きました。

出席者：有村、井上、岩井、江村、岡本、上総、紙本、黒田、合原、進藤、関、西村、錦、華岡、前田、宮井、宮崎、森口、森下、吉岡、渡辺、高瀬、船橋の23氏。

上映

1. 鉾がゆく (DV)

高瀬辰雄さん 7分28秒

数年分を撮った映像を1本の作品にするため、最近撮った分もあえて4:3で撮影された由。さすが京都の地元の方だけに、祇園祭の鉾をいいカットで撮られていました。フィルム時代から映像に取り組んでおられる方だけあって撮影、編集共にベテランの域です。ただ音処理に課題があるようです。現録を消してBGMだけのところが多く、せっかくの祇園祭の雰囲気損なわれています。記録的要素の方が強い作品だけに現録を最大限に活かしてBGMは最小限に抑えたほうが良いように思います。また、ラストが少し物足りない気がしました。しかし全体的にはさすがに良く出来た作品

です。

2. つれづれ大阪城 (DV)

松橋喜敏さん 13分04秒

先々月入会されて2作目の出品作。自宅が大阪城の近くで、よく大阪城へは足を運ばれているとか。スチール写真が趣味だったとかでビデオは3年目ながら、画面は落ち着いてよく撮られています。城もあちこちの門や石垣等くわしく字幕で紹介されています。編集の点で気になったのは全カットがオーバーラップだということ、こういう性格の作品はカット繋ぎ中心で充分です。時間をとばすとか場所を変えるポイントとか意味のあるところにオーバーラップとかその他の転換方法を使う方が良いと思います。ノンナレで13分は長く感じます。

3. アクエリウム (HDV)

有村 博さん 6分06秒

アクエリウムとは水族館という意味で、鳥羽へ行って魚を撮ってこられました。字幕に「私は、特に魚類の眼に注目した」とのコメントが入っていました。きれいな魚、珍しい魚、浮草のような魚などいろいろ出てきて楽しい作品に仕上がっていました。ラストの字幕には「大きな眼、小さな眼、瞬く眼、瞬かない眼、色々あっておもしろかった!」と締めくくられていました。たつのおとしごのところで2人の人の足が写りこんでいたのが惜しい記がしました。

4. 京都2日間の旅行・後編 (HDV)

吉岡貞夫さん 11分25秒

日本アマチュア映像作家連京都総会後の観光ツアーでの撮影で、先月の前編に引き続きの後半部分です。あじさいの三室戸寺から貴重な文化財である宇治平等院や宇治神社等々くわしく紹介されています。ラストは茶席で御点前を戴く映像仲間たちの姿でしめくられました。よく調べられて解説され解り易く紹介しておられます。

5. 余部・初春 (HDV)

前田茂夫 11分34秒

大晦日から2010元旦にかけて、更にとんどが燃やされる正月明けの頃までの撮影です。除夜の鐘ををつくシーンはさすが前田さんだな思いました。厳しい寒さのなか、静まりかえった夜の鐘の音が印象に残りました。元旦の朝、一番列車が余部鉄橋を駆

け抜けていきます。明るくなって神前でのお正月の儀式が始まります。それにしてもぬかずく氏子達の前を移動撮影までされているカットには驚きました。地元に着して撮影を続けておられる作者ならではの映像です。できれば一番列車の後のお地蔵さんと列車のカットなど省いて10分程度の作品に纏められたら、全国コンでもいけそうな作品になると思います。

6. 早春賦 (HDV)

宮井 健さん 4分13秒

なつかしの唱歌をバックに映像を描かれました。情緒たっぷり楽しくつくられています。鴨のカットが多すぎるように思いました。菜の花や子供たちのカットをもっと膨らませ、季節感と子供らの元気さに絞られては如何でしょうか。

7. 箕面修験の滝道 (HDV)

進藤信男 14分54秒

大変な努力で精力的に撮影しておられる様子が多彩な画面から伝わってきます。大作ですが作品のねらいをもっと絞り込まれた方がよいように思いました。しかし箕面大滝への散策道はいいですね。

8. 鯖街道の名水 (HDV)

森口吉正さん 8分40秒

日本海側と京都を結んだ道、鯖街道。当時の面影を追い更に名水を求めて作品に纏められました。名水を追っ掛けては右に出る者がいない作者ならではの出来映えです。解説も適確で解り易く纏められています。

9. YOSAKOI ナイト (HDV)

江村一郎さん 6分10秒

よそこの映像は、高知本場出身の作者の独壇場です。毎年帰郷されて作品をモノにされ、私達を楽しませて頂いています。しかし今回のラストが少し期待はずれの感がありました。少し手をぬかれたか…?

10. ベッラ島 (HDV)

関 剛さん 6分30秒

北イタリア湖水地方にあるマッジョーレ湖。そこへボートでベッラ島へ渡っての観光です。周囲1kmの小島ですが貴族の住んでいた豪華な宮殿のある島でした。さすが関作品らしい映像とBGMを堪能させて頂き、本年最後の例会を締めくくりました。